

シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

多面的機能支払
熊野・御浜・紀宝

おおごと

Vol.9 大里農村環境活動組織・大里第二農村環境活動組織(紀宝町大里)の軌跡

—美しい里山を守り、次の世代へとつないでいく—

多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューし、シリーズ企画として皆様にお伝えしている。今回は、三重大学生物資源学研究所大学院生の森武志さんがインタビュアーとして、紀宝町大里地区で協力し合い農地を守っている2つの組織を紹介する。



農業を営むことの大切さを伝えたい
心とます大里の田園風景

(左から)大里第一 副代表 原章三さん、代表 峯敬三さん、会計 井賀淳也さん
(右)大里第二 書記・会計 楠本祐介さん

紀宝町の中心部から約10分ほど車を走らせると、山々に囲まれた紀宝町大里地区の田園風景が広がっている。近くには自然を活かした大里親水公園があり、子どもたちの元気な声が飛び交う活気あるところだ。

この日は7月のとても暑い日で、大里の田んぼは青々とした稲と空に覆われていた。

この大里の田園風景を守り続けている大里農村環境活動組織(以下、大里第一)の峯さん、原さん、井賀さん、大里第二農村環境活動組織(以下、大里第二)の楠本さんにお話を伺った。

—大里地区は広大な田んぼが広がっているのですね。

原—大里地区は、相野谷川に沿って約40ヘクタールの田んぼが広がっています。相野谷川に約100年前に造られた堰が3つあって、そこから農業用水を取水しており、大里地区の農業を支えています。

相野谷川流域は紀宝町の中でも、早い時期から、ほ場整備が進められていた地域であり、若い担い手の方が活躍しています。しかし、大雨時には相野谷川が溢れ回り一面が浸水することも多く、農業への被害も大きいです。



【紀宝町大里地区の田園風景(8月)】

—稲が青々と大きく育っていますね。

峯—このあたりは、温暖な気候なので3月に田植えを行う「早場米」を栽培しています。稲刈りは7月下旬頃から始まります。三重県内では一番早く収穫が始まります。今年は、雨が少ないので心配ですが、新米の収穫が楽しみです。

原—米は多様な品種を栽培しています。コシヒカリが多いですが、あきたこまち、結びの神、なついろ、環境に配慮したレンゲ米にも取り組んでいます。他にも、飼料米や昨年度から井賀さんはおでん大根などにも取り組んでいます。

—組織について教えてください。

井賀—大里第一の構成員は約20名です。相野谷川の上流から2つ目の堰までを大里第一、3つ目の堰までを大里第二が管理すると区別し活動しています。

楠本—大里第二も構成員は約20名で、非耕作者の方も活動に参加しています。

—活動を始めたきっかけは何ですか。

峯—大里第一は現在4期目の活動をしています。約20年前に一部の田んぼが耕作放棄地になりかかって、先代の会長が耕作放棄地を何とかしたいと思い、僕を誘ってくれたことがきっかけで参加しています。楠本—大里第二は獣害被害が深刻で、地域一体となり対策しようという流れで昨年度に発足しました。大里第一の皆さんからアドバイスやノウハウを聞いていたので、組織を立ち上げやすく、お金の使い方などの運営も抵抗なくスムーズにできました。



【大里での営農風景】

—どのような活動をされているのですか。

原—大里第一は、約1kmある水路の草刈りや泥かき、点検などの見回りを行い、人件費を交付金で支払っています。他にも、景観作物田として菜の花やスイセンの植栽にも活用しています。

楠本—大里第二は、獣害対策の資材や設置するための人件費として活用しています。主に、柵のメンテナンスなどに交付金を活用しているのですが、まだ地域活動には使えていません。今後は、景観形成等の地域活動にも力を入れていきたいと考えています。

—スイセンの植栽活動は地域の方と一緒にやっているのですか。

井賀—毎年10月第1週目に、相野谷小学校、相野谷中学校の生徒と相野谷川沿いに約500球植栽しています。15年間毎年、恒例行事として行っていて、去年からは相野谷保育所の5歳児たちも一緒に活動しました。学校の行事と併せて実施しており、子どもたちが楽しんで取り組んでくれるので、とても嬉しく思います。

原—地域の人たちから「今年もきれいに咲いているね。」と声をかけられると、とてもやりがいを感じます。



【相野谷小学校、相野谷中学校の生徒と植栽体験活動】

—今後の目標を教えてください。

井賀—農業者の減少に伴い、農業の大切さを実感する場が減少しているため、今後も教育機関を通して、農業について伝えていきたいです。

子どもたちが、景観や水の綺麗さなど自然と触れ合いながら大人になってくれたらいいと思います。

峯—この大里の景色がすごく好きで、今後も残していくためには、一生懸命農業をしている若者を応援していくことが僕たちの務めであると考えています。

楠本—獣害対策に力を入れたいので知識を得るために、構成員みんなで研修会に参加して、地域一体となり取り組むみたいと考えています。

また、将来、紀宝町に残していく必要がある農業(柑橘、水稲など)を、今後も地域全体で盛り上げていきたいと思っています。

■取材を終えて(三重大学 森さん)

大里第一は、多面として活動する前から堰の管理や地域維持活動を行ってきた組織で、人数は少なくなっているものの、地域への思い入れが強い人たちによって構成されていた。また、大里第二についても、先にある大里第一に学びながら両者協力して活動を行っていた。しかし、農家が減少していることで、多面的活動を維持することが厳しいことや農業に対する非農家との合意形成が難しい現状であることが分かった。また私は学生ではあるが、行政や地域住民とは違う大学という立場を生かして、農村地域の力になりたいと改めて思った。

| 組織名 | 組織設立年 | 活動面積 | 活動メニュー |
|--------------|-------|-------------------|------------|
| 大里農村環境活動組織 | 平成19年 | 約22ha(田)約0.4ha(畑) | 農地維持支払 |
| 大里第二農村環境活動組織 | 令和5年 | 約20ha(田) | 資源向上支払(共同) |

取材:三重県熊野農林事務所 山口、青山、橋本、紀宝町役場 清水
三重大学 森本准教授、森(令和6年7月)
問い合わせ先:熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課(0597-89-6128)

